

夫(妻)から思いやりを感じていますか？

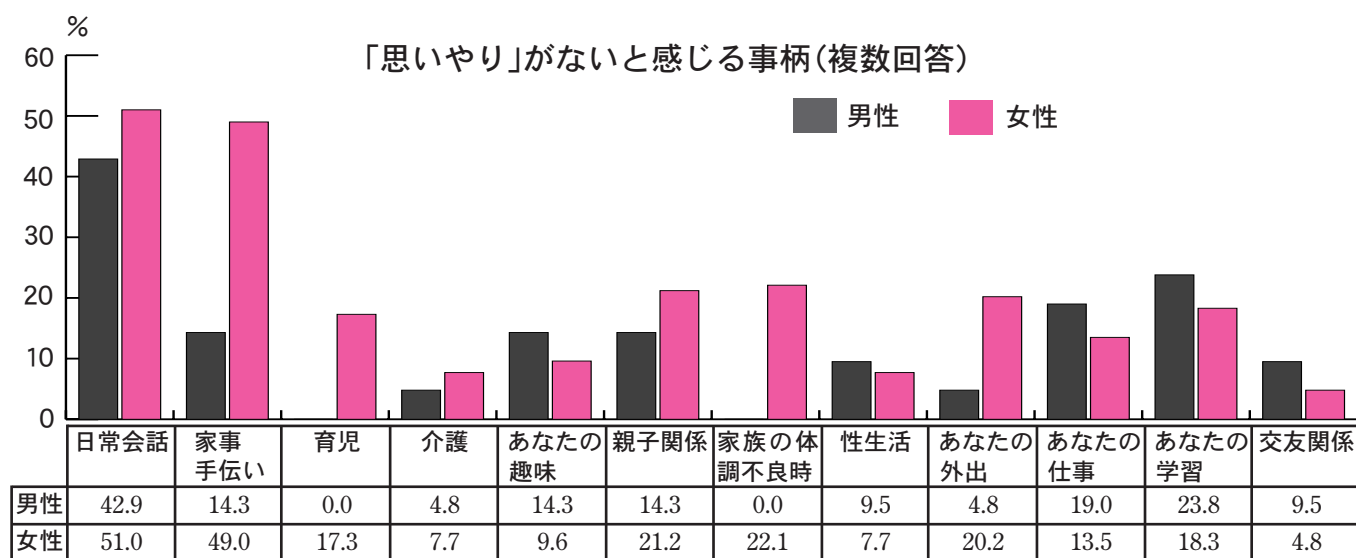
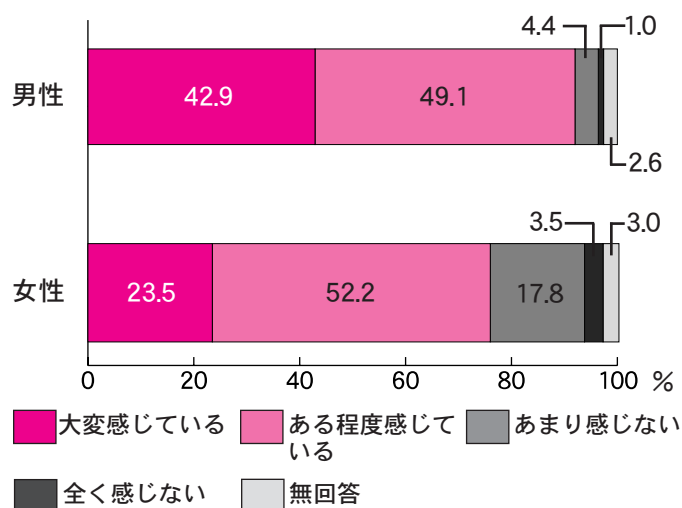
前月号に引き続き、「新男女共同参画社会推進プラン(仮称)」策定のために本年1月に実施した市民意識調査の概要を掲載します。今回の執筆は男女共同参画推進委員会のメンバーにお願いしました。

「あなたは、日常生活で配偶者から「思いやり」を感じていますか(右図)」という問いに対して、「大変感じている」が男性で42.9%なのに対して女性はその半分程度の23.5%、「どんなことに「思いやり」がないと感じますか」(下図)という問いに対して、「日常会話」が最も多く、次に「家事手伝い」、「親子関係」と続いています。

男女別にみると「家事手伝い」は女性の半数近い49%が「思いやり」がないと感じています。また、「外出」についても20.2%となるなど、感じ方に大きな開きがあります。家事手伝いを夫に求めてもままならず、育児や家族の健康は妻任せ、外出も制約されているという現状が見えています。

また、一日の生活時間の平均値を見ると「家事・育児等の時間」が女性は男性より3時間も多く、「仕事・学習時間」と「家事・育児等の時間」の合計でも女性の方が1時間も長い結果となりました。その分、女性の「余暇活動」が制約されているのがわかります。(下へ続く↓)

あなたは、日常生活で配偶者から「思いやり」を感じていますか？(既婚者のみ回答)



(↑上から続き)「男女共同参画社会」とは、一人ひとりが生き生きと過ごすことができる社会です。生き生きと過ごすためには、一人ひとりの心が満たされていなければなりません。

心が満たされるということは、自分の気持ちを分かってもらえることではないでしょうか。「大変だね」「ご苦労さま」「私も仕事しよう」とか「ゆっくりしておいで」「楽しんでおいで」というように相手を感じたこと、思ったことを自分に返してもらえること。そうすることにより「ああ、気持ちが分かってくれた」「良かった」「また頑張ろう」という気持ちになれるのでは。この「気持ちを分かてもらえること」が「思いやり」ではないでしょうか。

アンケート結果から、特に「家事・育児」「外出」において、「私の気持ちをわかってよ」という女性の声が聞こえてきます。しかし、女性も自分の気持ちを分かてもらえた時は、「ありがとう」「うれしい」というその気持ちを相手に伝えることが大切ではないでしょうか。そこにまた「思いやり」の気持ちが現れるのだと考えます。お互いが相手の気持ちを分かり合えた時の心の充実感があってこそ、私たちは生き生きと過ごせるのではないのでしょうか。

アンケート結果は、「お互いの思いやりの大切さ」を教えてください。「思いやり」の気持ちをお互いが持ち、お互いに生き生きと過ごしていきましょう。